

平成26年度 京都市交通局運営方針の総括表

基本方針・重点方針	平成26年度重点取組				
	取組名	目標	計画・条例等	実績	
<p>「歩くまち・京都」を支える市バス・地下鉄の交通インフラ機能の向上と、安定した経営基盤の確立に努めます。そのため、利便性を高めることによりお客様のご利用を促進する「攻めの経営」の更なる推進と、「全国一のお客様サービス」の実践にチャレンジします。</p>	1 お客様接遇向上と安全の徹底	<p>①全国一のお客様接遇の実践 ②すべてのお客様に信頼される安全の追及 ＜市バス＞ 重大事故0件 有責事故件数の大幅な減少（80件以下） ＜地下鉄＞ 責任事故及び輸送障害0件</p>		<p><両事業共通> ①次長をトップとするプロジェクトチームを中心として、交通局一丸となった交通事業者全国一のお客様サービスの取組の展開 ・「全国一お客様サービス実践プロジェクトチーム」を設置し、職員の意識改革や、スキルアップ、職場の士気の高揚、重点目標の実践など、交通局一体となった取組を展開 ＜市バス事業> ②市バスの事故件数について、重大事故を1件発生させ、また、有責事故件数についても4年連続で平成22年度比3割削減の水準を維持することができたが、目標である80件以下（対平成22年度比半減）の達成には至らなかった。 ・接遇向上と安全運転に向けた、キャリア別の運転士研修の導入 ・全運転士に対する事故防止重点研修を実施 ・事故防止重点強化策を90日間に拡大して実施（違法駐車への啓発による走行環境の改善） ＜地下鉄事業> ②当局の責任によって生じる運転事故及び輸送障害は0件であった。 ・烏丸線烏丸御池駅に可動式ホーム柵を設置（平成26年12月供用開始） ・今出川駅に車掌用モニタを設置 ・駅改札口及び階段通路に防犯カメラを増設（11駅）</p>	企画総務部研修所 自動車部各課 高速鉄道部各課
	2 お客様サービス機能の拡充	<p>①市バスICカードシステムの導入と普及促進 ②地下鉄案内サインのリニューアル ③地下鉄駅トイレの美化推進 ④地下鉄駅へのインターネット接続拠点「KYOTO_WiFi」の設置</p>	京都市高速鉄道事業経営健全化計画 京都市交通局市バス・地下鉄中期経営方針	<p><市バス事業> ①市バスICカードシステムの導入と普及促進（26年12月全車一斉にサービス開始） ＜地下鉄事業> ②地下鉄駅の案内表示のリニューアル ・駅出入口上部の駅名標を地下鉄のビクトグラムを用いた表示に刷新（東西線全駅で実施。27年度に烏丸線で実施し全駅で完了予定） ・駅ホーム階においてエレベーター等の案内表示を増設（烏丸線・東西線全駅で実施） ・駅構内の案内サインを見やすく統一した表示に刷新（烏丸線3駅で実施。29年度までに全駅で完了予定） ③地下鉄駅トイレの美化推進 ・全駅のトイレの悪臭調査を行い、便器交換や床洗浄・コーティング等のオーバーホールを実施 ・北大路、今出川駅のトイレについて、段差解消や洋式便器の設置等の実施設計を完了 ④地下鉄駅へのインターネット無料接続拠点「KYOTO_WiFi」の設置 ・地下鉄駅へのインターネット無料接続拠点「KYOTO_WiFi」の設置を拡大（26年度で烏丸線・東西線全駅への整備を完了） ・駅間における携帯電話による通信環境が未整備であった東西線において、通信環境の整備を完了</p>	営業推進室 自動車部各課 高速鉄道部各課
	3 バス待ち環境の向上	<p>①「KYOTO_WiFi」を活用したバス接近表示器の整備 ②地域、事業者の協力による新たなバス待ち空間「バスの駅」の設置 ③広告付きバス停上屋整備事業の推進 ④照明、ベンチの整備推進</p>		<p>①インターネットを活用したバス接近表示器の設置 ・これまでの年間5基～10基の設置数を大幅に上回る60基を設置 ②地域、事業者等の協力による新たなバス待ち空間「バスの駅」の設置 ・平成25年度から着手した5箇所と合わせて、12箇所に設置 ③広告付きバス停上屋の設置 ・これまでと比べて大きく設置数を伸ばし、49箇所に設置 ④簡易ソーラー式照明器具の設置（30基）、ベンチの設置（18基）</p>	自動車部技術課
	4 積極的なお客様増加策の推進	<p>①全庁を挙げた「京都市地下鉄5万人増客推進本部」の取組の更なる推進 ②区役所・支所等との連携による駅を拠点とした増客の取組 ③地下鉄の魅力向上とPRの促進 ④市バスの利便性向上と更なる利用促進</p>		<p>平成26年度において、一日当たりの旅客数は地下鉄が359千人、市バスが341千人と、どちらも予算の数値を上回った。 ＜地下鉄事業> ①「地下鉄5万人増客推進本部」の体制の下、沿線施設や区役所との連携、イベントの開催、「若手職員増客チーム」の取組等による全庁を挙げた増客の取組を推進 ②区役所・支所や沿線施設等と連携し、増客に向けた取組を実施 ・沿線大学と相互に連携・協力する協定を締結し、公共交通利用促進や駅の賑わい創出に向けた取組を推進 ・北大路～竹田12駅を所管区内に有する区役所・支所と連携し、市民しんぶんに地下鉄の便利情報を挟み込み（平成26年度で全駅での取組を完了） ③地下鉄の魅力向上とPRの促進 ・地下鉄・市バス応援キャラクター「太秦萌」を活用した積極的なPR活動を展開 ・芸術系大学との連携による「駅ナカアートプロジェクト」、ホテルや映画・商業施設等とタイアップしたイベント、イベント列車の運行等を実施 ＜市バス事業> ④平成27年3月に主要系統や観光地へのアクセス系統の増便、鉄道との結節強化による乗継利便性向上など、更なる路線・ダイヤの充実を図る新ダイヤを実施</p>	営業推進室 自動車部各課 高速鉄道部各課
	5 駅ナカビジネスの展開	<p>①「コトチカ山科」の開業 ②「コトチカ御池」の拡充 ③丸太町駅構内店舗の整備 ④今出川駅構内店舗の整備</p>		<p>①新たな商業スペース「コトチカ山科」の開業（26年10月） ②「コトチカ御池」の拡充に向けた実施設計に着手 ・27年度中開業予定 ③丸太町駅構内店舗の開業（26年12月） ④今出川駅の店舗展開に向けた実施設計に着手 ・27年度中開業予定</p>	営業推進室
	6 安定した経営基盤の確立	<p>①<市バス事業> 平成27年度に、累積資金不足を解消するとともに、一般会計からの任意補助金をゼロにし、「自立した経営」を目指す ②<地下鉄事業> 収支改善・安定経営に向け経営健全化計画を著実に前進</p>		<p>①<市バス事業> ・累積資金不足を解消し、一般会計の任意補助金に頼らない「自立した経営」を実現 ・1日当たり旅客数は、前年度比1万5千人増の34万1千人 ・経常損益は、生活支援路線補助金4億62百万円を全額執行抑制したうえで、24億円の黒字を確保 ②<地下鉄事業> ・経常損益の赤字が9億円にまで縮小、現金収支の黒字が81億円に拡大し、経営健全化計画を上回る収支改善 ・資金不足比率は、14.8%まで改善（経営健全化出資金の繰入れなしで安定的に20%を下回る見通しが立つまで、経営健全化団体を継続） ・1日当たり旅客数は、前年度比1万5千人増の35万9千人</p>	財務課